

外来種に関する宇宙科学館の取り組み ～調査研究、展示等の事例紹介～

○喜多 章仁 Kita Akihito・増田 直久 Masuda Naohisa

〒843-0021 佐賀県武雄市武雄町永島 16351 佐賀県立宇宙科学館

【はじめに】

佐賀県立宇宙科学館（以下、当館）は、「宇宙から地球・佐賀を発見する、佐賀から地球・宇宙を発見する」をテーマに、来館者の科学への興味関心をより高めること、未来を担う子どもたちの「科学する心」を育てること、県民全般に科学知識の普及を図り新しい郷土を創造する人材の育成を目的とした体験型の科学館である。当館には3つのゾーンがあり、中でも佐賀発見ゾーンでは佐賀県の土地の成り立ちや地質、県内で産出する古生物化石等を学べる地学分野と、佐賀の自然を代表する有明海や玄海、佐賀平野等に生息する様々な生物の生体展示等を展開する生物分野の展示が展開されており、身近だがかけがえのない佐賀の自然について体験しながら学ぶことができる。また、それに関連したワークショップ（以下、WS）や観察会、調査研究、学校等への出張教室、館内外において教育・普及活動も開催している。

今回は、当館における外来種に関する調査研究やWS、観察会、企画展示等について事例紹介する。

【調査研究】

当館西側に隣接する農業用貯水池「池ノ内湖」において、数年おきに行われる堤返しに合わせてオオクチバスやブルーギル等の外来種の調査を行っている。1998年の初回調査で多数確認されたオオクチバスは2015年以降確認されていない。要因として定期的な堤返しや駆除イベント等の効果が大きかったことが考えられる。

【WS】

館周辺の自然環境を参加者と一緒に採集・観察・調査し、自然について学ぶ野外観察会を行い、確認された生物や、周辺環境との関係等について紹介・解説している。観察場所周辺は護岸等の整備が施されているものの、前述の池ノ内湖と比較して外来種の種数は少なく環境が適度に維持されている。

【企画展示等】

当館ではこれまでに外来種に関する企画展示「月刊 Alien Species」や「増える生き物／減る生き物」を展開してきた。特定外来生物や侵略的外来生物だけでなく、国内外来種についての紹介や、県内に生息する絶滅危惧種の生体展示も併設することで、双方の存在や外来種の影響についてより理解が深まるような展示工夫をした。